

金臺平良充之墓

- (1) 君諱良充字叔耳。一字好肩。號金臺氏。平本。其姓蓋出自北條氏。祖父荒井君貞享中來應松岡侯辟。其子良隆君嗣仕。是時更平本氏。松岡侯襲封之日。隨在本藩。牛渚君其義子矣。勢藩之士伏枝氏之子。享保甲辰之昏。生上總州葛飾郡本所牛島元文丁未之春日。平本氏母君實伊達侯之隊士八木氏之女也。君幼名秀次郎。更為沖之丞。後為但見。明和戊子之秋。有命同應於金津。賜名藤七郎。爾后進班殊蒙擢用。食祿三百三十石。君又增五十石。以功勞之故也。奉仕三十有餘年。夙夜維謹焉。後以疾而辭。不免。強辭則賜之骸骨。於是祝髮號牛渚。○其居者三。曰蘿月亭。曰蜘蛛菴。曰南柳居。有逕。曰蝴蝶曲。以樂焉。為人聰敏。慨然有大志。深好文雅。官暇未嘗廢卷。壯歲學詩於筑波石先生。生多可而稱之。其對問來復之。○堆於机案之間。樂事譚論不倦。言辭綿綿如縷不絕。人人欣聞。咸心如醉。以移晷而云。君天明丙午秋七月十四日殞。享季六十有四。與亡夫人今立氏合葬於宗圓精舍先塋之次。臨沒顧命服素棺。喪事惟○君初娶白石氏。早沒。再娶今立氏。名夜紗。字春絃。嗜國風。罹疾前逝。前後子男十一人。嗣子良卿君今立氏所生。殆有乃父之風。其他或夭。或適人。世譜所悉不多贅。君到金津有殊政。其臨事長於決斷。百姓便之。其愛人疎交賤隸。皆恩禮是加。未見喜慍色。辭金津之日。民人相慕。沒後北瀉之一邑。相謀樹碑以發君之光著。懿美於此。餘芳可知矣。余與君有舊。生前兼托墓誌於余。乃今良卿君亦促之。不可以已。竟為之銘。曰。於戲天矣。厥命維休。哲人君子。忠孝外悠。不論無瀆。巨剛兼柔。鳴名莫○。篤行既脩。于茲有石。德音千秋。

天明丙午之秋

雨森增質并撰

スウザン
嵩山文稿

「恩翁之碑」文

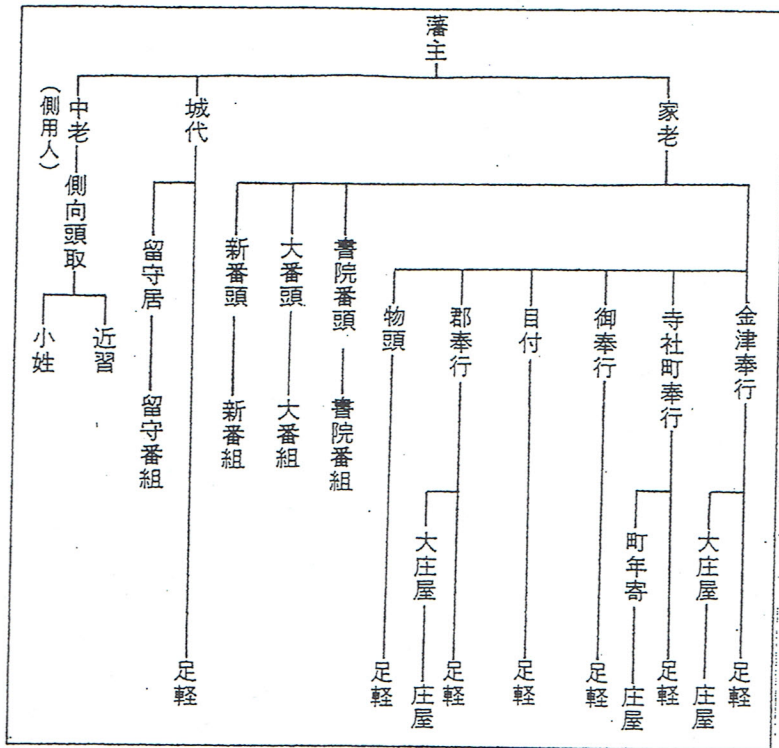
北瀛浦人。祭平牛渚君云。君嘗爲金津令。時北瀛浦不豐。民離散者十七八。君聞行以撫其民。期年而治。而浦人相率。謁君謝恩。且稱君曰。恩翁。後君陞。列爲待謁者。而移家于藩。而浦人亦復來謝者。十六七年如一日也。今茲初秋。君病卒于家。其浦人亦來用。乃里正某者。請奉君之謚號。嗣君許。後數日。復告曰。選某地。更建恩翁之碑。且設神主。同祭祀焉。令吾子孫不忘大恩矣。嗣君亦許焉。驥聞之曰。驥奉君之談笑者亦十三年。所深知君之仁忠溫厚。有召公之德。而今聞其浦人之祭祀者。則其浦人即召南之人。而有甘棠之愛者。固然矣。其他君之有德于民者。亦可以推知云。丙午冬十月 爲官溪野文驥拜撰

不意整天到金津有殊政其能
 長此决新百世後之真教人跡之
 賤謙且禮長如未見喜愜立詩
 在津之日以人相慕以後北澤之
 臣各相講樹碑以表天之光者然
 美於斯餘乃可知其美矣夫古德
 生前兼此莫說其用乃今古德天
 亦促之不可以不責為之語曰
 於廣天無礙拿維休指人天子也
 存外德不謂其清言則其亦德也
 夏成篤行既脩于茲指石德音
 千秋
 大明丙午之妹

何森增贊拜撰



資料 ④



藩制組織図

福井藩家臣団・家格別一覧 (安政年間)

家		格	人数	分類		
士	本	多	家	1	上級	
	高	知	席	16		
	高		家	2	武士	
	寄	合	席	38		
	定	座番外	席	14	中級	
	番	役番	外	106		
	分	書院番	大番		495	中級
		留守番	小姓			
		新番	新番格		81	武士
		医師・絵師・茶道等			49	
士		分合計		802		
卒	目見以上	与	力	39	下級	
	目見以上	小役	人	84		
	目見以上	一統目見	席	87		
	目見以下	小算・坊主・下代		347	武士	
	目見以下	諸組 (足輕)		1,341		
	卒	合計		1,898	士	
家臣団総計			2,700			

(註) ①「慶永公御代給帳」による
 ②荒子・中間等の小者(973人)は除く

金津奉行平本良充の家格

平本家は4代30年余の長きにわたって金津奉行を勤めた上級武士の家柄です。家格は良隆・良充は定座番外席に、良郷・良高は一つ上の寄合席になっており、石高は350石です。

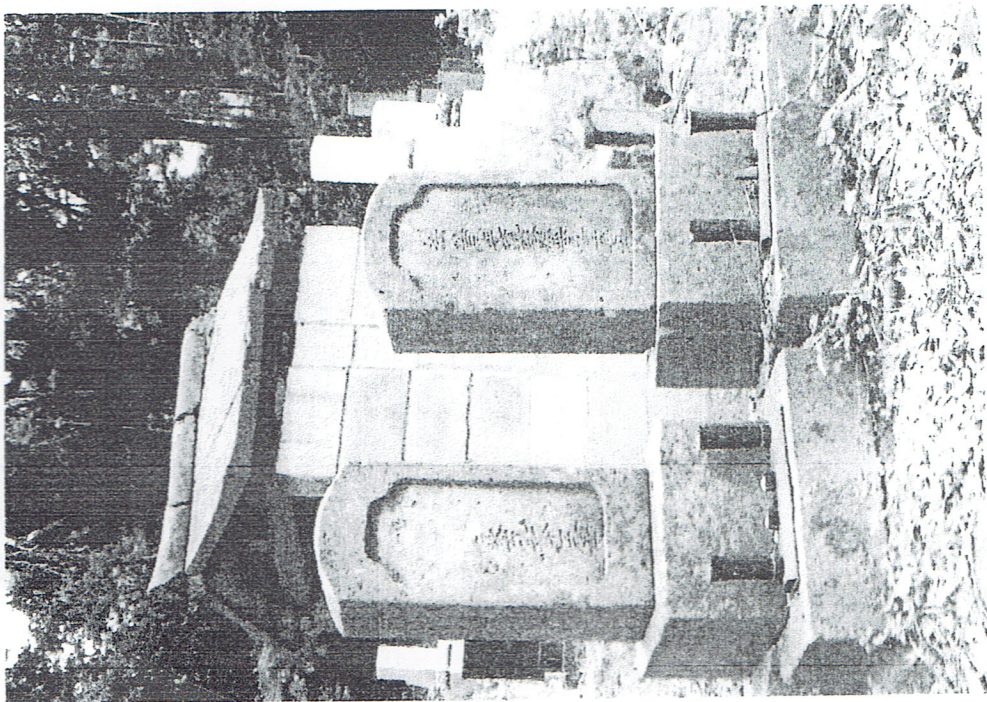
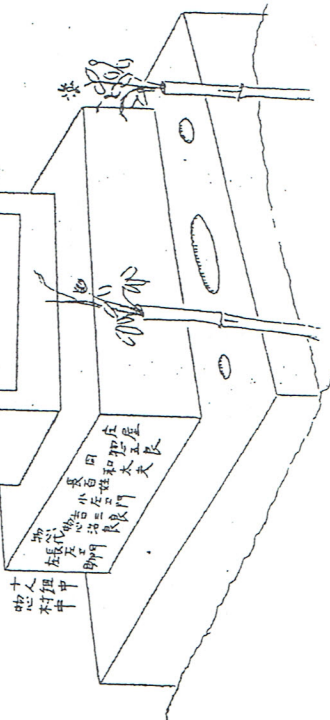
12代	寛保3年(1743)	より宝暦5年(1755)	までの13年間	平本但見	良隆
16代	明和5年(1768)	より安永8年(1779)	までの12年間	平本但見	良充
19代	享和3年(1803)	より文化1年(1804)	までの2年間	平本藤七郎	良郷
25代	文政12年(1829)	より天保4年(1833)	までの5年間	平本但見	良高

《注》右は舟沢茂樹の「金津奉行一覧表」に依る。一般には、平本良充の金津奉行在任期間は、安永9年までの13年間としている。

平本家は当主になると「但見」を襲名していますが、別にそれぞれが固有の名前があります。

良充が金津奉行在任中、業績により藩主重富より藤七郎の名を賜り、平本藤七郎と名乗り、藤七郎は受け継がれて、良郷も平本藤七郎と名乗っています。従って、年代などを勘案しないと、「平本但見」や「平本藤七郎」だけでは紛らわしくなります。また、良充の子息良郷の2女三幾は中根雪江の母になります。

天明六酉歲
 金堂平良充叔耳居士
 七月十四日卒
 平本藤七郎様墳墓



文化九申歲
 妙法慧光院殿照無日量居士
 七月廿七日卒
 平本藤七良様墓

